



全国第4位の規模をもつ大型前方後円墳
造山古墳（第1・2・3・4・5・6古墳）



指定区分	国指定史跡
読みかた	つくりやまこふん
所在地	岡山市北区新庄下
指定年月日	大正10年3月3日
解説	<p>全国第4位の規模をもつ5世紀前半の前方後円墳。全長約360m、後円部径約224m、高さ約27～32.5m。三段築成。後円部墳頂には形象埴輪が、墳丘斜面の各段には大量の葺石と円筒埴輪列が認められる。墳丘上まで上がる全国最大の前方後円墳として知られる。6基の陪塚(ばいづか)があり、馬形帯鉤が出土した榊山古墳、直弧文が彫られた石障をもつ千足古墳が著名。</p>
アクセス方法	JR備中高松駅から約3km
公開状況	自由
設備	<p>駐車場・トイレから古墳登り口まで約0.5km</p> <p>   </p>
備考	<p>築造時には日本最大級であったと考えられている古墳です。</p>

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	造山古墳 (第1・2・3・4・5・6古墳)
よみかた	つくりやまこふん
しょざいち (所在地)	岡山市北区新庄下
していたひ (指定した日)	大正10年3月3日
せつめい	日本で4番目(ばんめ)に大きい前方後円墳(ぜんぼうこうえんふん)です。長さおよそ350メートル、もっとも高いところでおよそ32.5メートルもあります。5世紀(せいき)前半(ぜんはん)に築(きず)かれたと考(かん)がえられており、このような大きな古墳(こふん)があることは、吉備(きび)の国がこのころ、日本の中でもとても大きな権力(けんりょく)を持(も)っていたと考えられます。